

■ **事業のセールスポイント** 「市民のウェルビーイングな暮らしを実現する〈スマートシティさいたま〉」の構築に向け、AI等スマート化技術や官民データの活用により、地域課題・ニーズに対応しながら、駅を核としたウォーカブルでだれもが移動しやすい、人中心に最適化された都市空間・環境「スマート・ターミナル・シティ」を形成。

■ 対象区域の概要

- 名称：さいたま市
- 面積：約217.4km²
- 人口：約133万人
- 位置図：



■ 都市の課題(都市インフラ関連)

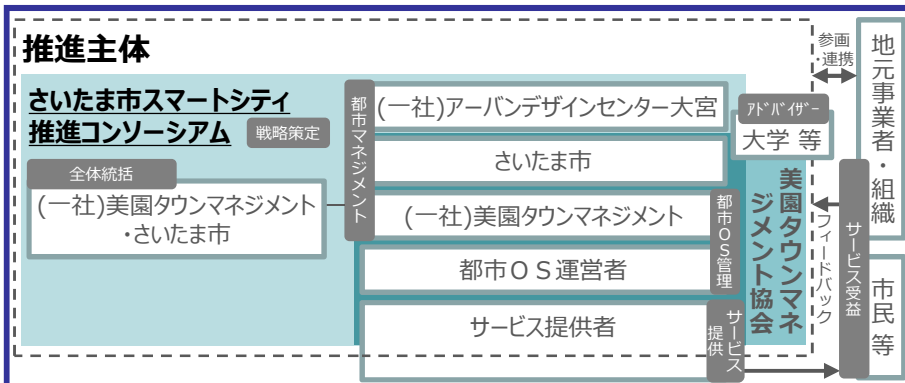
- 慢性的な**交通渋滞の解消**
- ライフスタイル・ニーズの変化に合わせた**移動手段充実**
- モード間連携・地域連携による**公共交通の利便性向上・地域活性化**
- 自家用車から徒歩・自転車・公共交通への**行動変容促進**
- ウォーカブル**な都市環境の形成
+エリア特性に応じた課題

■ 解決方法

駅を核とした 「スマート・ターミナル・シティ」

さいたま市のスマートシティのコンセプト「市民のウェルビーイングな暮らしを実現する〈スマートシティさいたま〉」の構築に向け、**駅を核としたウォーカブルでだれもが移動しやすい、人中心に最適化された都市空間・環境を形成**

■ 運営体制



■ KPI(目標)

KPI	現況値	目標値
まちなかの滞留人口・時間	- (取組の中で計測)	- (取組の中で計測)
交通利便性への満足度	57.8% (R2)	64.0% (R7)
自動車分担率(市全体)	26.8% (H30)	現況からの減
グリーンポイント発行量	0ポイント	- (取組の中で計測)
店舗売上	- (取組の中で計測)	- (取組の中で計測)
身体活動量	- (取組の中で計測)	- (取組の中で計測)

【凡例】赤字：課題・問題点等、青字：解決策等

■ 本実行計画の概要

駅を核とした**スマート・ターミナル・シティ**を目指し、AI・IoT等のスマート化技術や官民データの活用により、地域課題・ニーズにきめ細かく対応しながら、①健康で環境にやさしい**脱クルマ依存型生活行動**を支え、**地域回遊性を高めるモビリティサービスを充実**させるとともに、②モビリティと**地域経済活動が連携した「ライフサポート型MaaS」**を構築・実装し、③**3D都市モデル**も活用した**スマートプランニング**の高度化・実践により**ウォーカブルな都市空間・環境**の形成を促進する。

○スマートシティで解決したい都市インフラ関連の課題

市全域	中心市街地（先行モデル：大宮駅・さいたま新都心駅周辺）	郊外住宅地（先行モデル：美園地区）
<ul style="list-style-type: none"> ①幹線道路の慢性的な交通渋滞の解消 ②コロナ禍・Postコロナにおけるライフスタイル・価値観の変化に合わせた（移手段の充実）とモード間連携・地域連携による公共交通の利便性向上・地域活性化 ③自家用車から徒歩・自転車・公共交通への行動変容促進 ④駅周辺におけるウォーカブルな都市環境の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤鉄道駅周辺の慢性的な交通渋滞の解消 ⑥東日本の玄関口としての交流拠点形成 ⑦大宮－さいたま新都心間の回遊性向上 ⑧商都大宮をはじめとするまちのにぎわい再生 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨生活拠点施設へのアクセス改善（自家用車に依存した生活行動の解消） ⑩交通弱者の外出機会の創出（新型コロナウイルス感染症に伴い外出機会が一層減少）

○課題解決の方向性

駅を核とした「スマート・ターミナル・シティ」

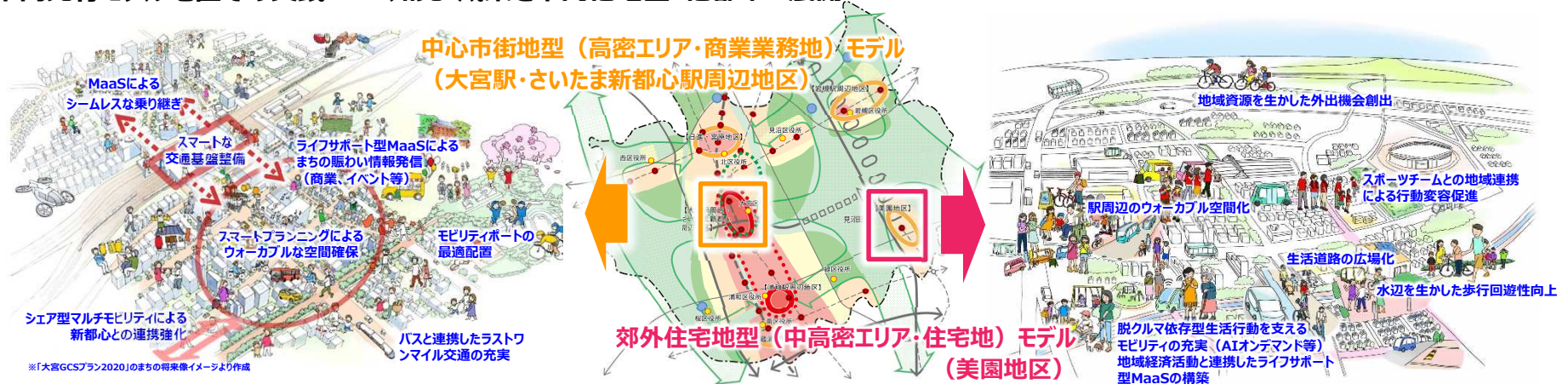
さいたま市のスマートシティのコンセプト「市民のウェルビーイングな暮らしを実現する（スマートシティさいたま）」の構築に向け、駅を核としたウォーカブルでだれもが移動しやすい、人中心に最適化された都市空間・環境を形成



＜実施する施策＞

- ①モビリティサービスの充実（シェア型マルチモビリティ・AIオンデマンド）
- ②ライフサポート型MaaSの構築
- ③スマートプランニングによるウォーカブルな都市空間・環境の形成

○市内先行モデル地区での実践 → 知見・成果を市内他地区・他都市へ展開



交通手段が限られ住民の自家用車依存が進む郊外住宅地「さいたま市美園地区」において、既存交通を補完し、多様な地域ニーズに柔軟に応えながら「脱クルマ依存型生活行動」を支える移動手段として、AIオンデマンド交通サービスの実証運行を実施。「土日」のプライベート等「仕事」よりも「私事」での利用が多い様子とともに、自家用車からの手段転換に寄与する可能性がうかがえた。また、市内初の試みだったが、「相乗り輸送」や「アプリ予約」への地域受容性が確認できた。

■ 実証実験の内容

- 交通手段が限られ住民の自家用車依存が進む郊外住宅地「さいたま市美園地区」（浦和美園駅周辺の自動車分担率 約48%）において、既存交通を補完し、多様な地域ニーズに柔軟に応えながら「脱クルマ依存型生活行動」を支える移動手段として、AIがリアルタイムで最適な配車を行うオンデマンド交通サービスの新規導入に向けた実証運行をR3/3/29～4/25に実施。（※当初予定は1～2月、緊急事態宣言で延期）
- 「相乗り輸送」や「アプリ活用」等に係る地域受容性の確認、サービス改善に向けたデータ分析等の検証を実施。

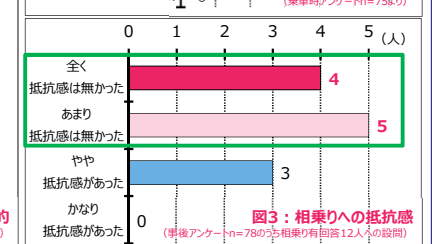
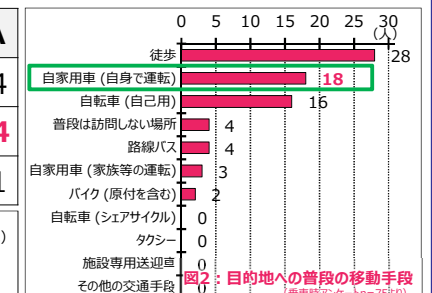
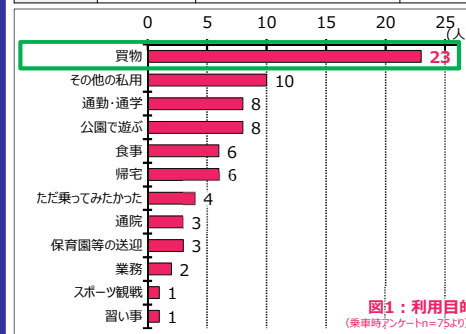
主催	さいたま市スマートシティ推進コンソーシアム
実証期間・運賃	3/29～4/4 無料
	4/5～4/18 大人：300円 / 小学生：150円
	4/19～4/25 大人：200円 / 小学生：100円
運行車両	運転手除く6人乗り×2台（コロナ対策で乗車定員4人に制限） ※埼玉県乗用自動車協会会員の（株）つばめタクシー・大宮交通（株）が運行
システム	（株）NTTドコモ「AI運行バス®」
予約方法	〈専用アプリ〉にて、乗降場所を指定したうえで乗車人数・乗車時間（「今すぐ」「10分後」「1時間後」のいずれか）を選択して予約 ※電話予約は無し



■ 実証実験で得られた成果・知見

- 「平日」よりも「土日」の利用が多く、アンケートから「買物」等プライベートな用途での移動目的が多く挙がり、「仕事」よりも「私事」での利用が多い様子うかがえた。（下表・図1）
- 普段は自家用車で移動している目的地へ本実証サービスを利用している移動が一定数確認でき、自家用車からの「交通手段転換」に寄与する可能性がうかがえた。（図2）
- アプリを通じた予約について多くの利用者は「分かりやすい」（約95%）とアンケート回答しており、普段からスマホ等を介したサービスに慣れていれば利用しやすいサービス提供形態と考えられる。
- 「相乗り」への抵抗感は低い結果となり、許容されるサービス形態と思われる。（※ただし、サンプルが少ないため引き続き要検証）（図3）

	日数A	延べ利用者数B	B/A
平日	20日	268人	13.4
土日	8日	211人	26.4
合計	28日	479人	17.1



AIオンデマンド交通は、ライフスタイルに合わせた移動手段の充実、自家用車からの行動変容等地域課題解決への寄与が期待できることから、引き続きサービスの民間実装に向けて取り組む。実装に向けては、今回実証の利用履歴のみならず、人流等各種データも合わせた行動分析によるサービス精度向上や、店舗等との連携による付加価値提供など、より一層利用シーンを想定したサービス設計による利用者数増加が必要であるとともに、地域（受益者）で支える持続可能なファイナンスモデルの構築が必要。

■ 実証実験で得られた課題

・実装に向けて、より一層利用シーンを想定したサービス設計による利用者数（運賃収入）の増加が必要。

➡今回実証の利用履歴のみならず、より深い市民ニーズの把握や、人流等各種データも組み合わせた行動分析によるサービス（乗降場所等）の精度向上。（一体の生活圏をなす隣接市との連携（鉄道沿線連携）検討含む）

➡飲食店舗等他サービスとの連携や、グリーンポイント等インセンティブ付与による付加価値提供。（※自家用車からの行動変容のみならず、地域経済活性化、外出機会創出にも寄与）

➡路線バス等基幹交通との連携による相乗効果。

➡スマホ等ICT機器操作が苦手な高齢者等のニーズの取り込み。（電話予約導入検討やICT機器利用支援の充実等 ※ICT機器利用支援は他事業で取組中）

・運賃収入だけに頼らない、地域（受益者）で支える持続可能なファイナンスモデルの構築・試行が必要。

➡多様な協賛の枠組み検討等。

■ 今後の取組:スケジュール

・AIオンデマンド交通サービスの民間実装、横展開に向けたステップ（予定）は次表のとおり。

R3	<ul style="list-style-type: none"> より深い市民ニーズ把握や人流データを組み合わせた行動分析によるサービス精度向上 飲食店舗との連携やポイント等によるインセンティブの効果検証 実証運行結果も踏まえた持続可能なファイナンスモデルの検討（多様な協賛の枠組み検討等）
R4	<ul style="list-style-type: none"> R3実証利用履歴に基づくサービス精度向上 ファイナンスモデルの試行と検証
R5	<ul style="list-style-type: none"> ファイナンスモデル構築に向けた協賛拡大 実装に向けた各種手続き、調整
R6	<ul style="list-style-type: none"> 民間事業として地域へ実装
R7~	<ul style="list-style-type: none"> 市内他地区、他都市（郊外住宅地）への横展開